

社会資本整備審議会 道路分科会 北陸地方小委員会
(平成22年度 第2回)

議事概要

1. 日時 平成23年1月18日(火) 14:00~15:50
2. 場所 長岡国道事務所 4階 大会議室
3. 出席者

[委員長]

まるやま きゅういち
丸山 久一 長岡技術科学大学 環境・建設系 教授

[委員] 敬称略・五十音順

いしぐろ あつこ (財)北陸経済研究所地域開発部 主任研究員
石黒 厚子
おおかわ ひでお 新潟大学 工学部長
大川 秀雄
さの かずし 長岡技術科学大学 環境・建設系 准教授
佐野 可寸志
なかやま しょういちろう 金沢大学 理工研究域 環境デザイン学系 准教授
中山 晶一朗
ながお はるあき 富山国際大学 現代社会学部 現代社会学科 教授
長尾 治明
まるやま ゆか (有)MAX・ZEN Performance Consultants 代表取締役
丸山 結香

※敬称略、五十音順

4. 議事内容

(1) 挨拶

- ・北陸地方整備局長

(2) 審議結果

- ・平成23年度新規事業採択時評価について事務局より説明され、了解する。

- ・計画段階評価の対策案の比較において、目標設定記載による達成度の評価の議論が今後必要ではないか。
- ・事業期間や事業の目標を決めた上で、マイナスの内容も示しつつ比較することも必要ではないかと考える。コスト最安が最適とも言えないし、すべて「○」でなくてもよいので、総合的に判断し選んだ方がよい。
- ・個別計画の内容ばかりではなく、周りの将来的計画も見て比較検討の上良い案となったという過程が必要。
- ・バックデータから、今回整備する道路に交通を集中させて近隣道路の混雑緩和にも繋がるのが分かる。よって、当該道路整備を進めるにあたっては、新潟市の新交通システムの計画を示しつつ、事業を進めることが重要な点である。
- ・B/Cが高く効果が大きい事業と理解するが、195億という事業にかかる費用を軽くする努力をして頂きたい。
- ・最初から栗ノ木道路と紫竹山道路の連続的整備ができなかったのか。
- ・対策案を比較するにあたっては、それぞれ事業期間が考慮されているのか。
- ・紫竹山道路は、新潟市の中心部と亀田バイパスで同市の南側を結び、また新潟バイパスとクロスする重要な位置付けであり、むしろ交通を集中させるという考え方は基本的によいと考える。
- ・工事期間が10年以上にわたり、その間は横ばいの交通量で推移し、工事完成した頃に交通量が減ってしまうかもしれない。つまり、工事中の渋滞に対して、その交通容量の確保に配慮すべき。
- ・全国に誇る新潟バイパスにクロスする重要な道路接続点で、結構なトラブルがあること自体に驚き。利用者は、そもそも現状の道路の立体交差のイメージでいると考えられ、速度の高い状態で平面交差となる「思い違い」も事故の原因とも思われる。何らかの対策を行うことは必然的であり、無信号で通過する新潟バイパスと直近する重要道路の接続が立体化となるのは当然と考える。
- ・栗ノ木道路との関係から当該区間だけ高架橋にならないのはおかしいこと。
(※)
- ・設計速度が60km/hとして設定されているが、警察の速度規制緩和の流れもあるので、高規格道路として80km/hも今後検討されてはどうか。
- ・栗ノ木川が有る為に上空の用地幅が広いことがもったいなく感じる。用地幅の工夫や縮減を検討されたい。
- ・現実的には、連続的な立体となる案は良い案。栗ノ木道路だけが立体となるのは逆の批判となると考える。(※)

- ・比較案についてはプラスの部分だけでなく、検討の段階であるので、反対されるポイントについても載せても良いのではないかと考える。
- ・今回は都市計画がある箇所を選択しているが、管内全体として長期的な課題に対し、どのように整備していくというような観点が無いと、出来るところだけをやっていくとアンバランスな整備となる可能性があり、気になる。
- ・紫竹山 IC から市中心部への全体都市計画のネットワークがある中で、事業化区間という現実的な計画のみで B/C を算出することは適切では無いのではと思う。検討過程でのが必要。
- ・栗の木川の上空空間の活用も考えられるのではないかと考える。
- ・方向性は提示案が良いが、中心部の道路整備のあり方は都市計画の考え方を踏まえて計画案を選択させるというコンセプトの説明があると解りやすい。道路の機能分散による交通量の減少での渋滞や事故から減少するのが普通の考え方。新潟市の中心部の道づくりの考え方のコンセプトを 1, 2 行でもよいので力説した方がよい。
- ・評価軸としてすべて良いという見せ方もあるが、何らかの課題はあるはずなのでそれを付記して比較して頂きたい。
- ・B/C の指標になると金額が目立たないが、経費の部分での節約努力は工事等でしていくべき。
- ・ここに限らず全国的な話と思うが、スピード化時代の中で従前どおり公共事業が長期化することが多い中で、長期となることでの経費や不測の費用が生じるので、利用者や施工者のベネフィットとなる選択の集中における「集中」についての考え方も提示することで説得性がでると考える。
- ・コスト縮減の更なる取り組みをしてもらいたい。
- ・これをすると、「強み」、「弱み」が生まれるという両面のデータを出してもらわないと客観的評価とならないのではと思う。
- ・比較案①を支持する前提として、今の時代の流れとして、最優先事項とするコンセプトを明確にアナウンスして進めてもらいたい。その中でも評価軸の工期短縮は命題と考え、計画を見直しながらより効果的な事業として頂きたい。

(※) 当該区間の両側の区間は、インターチェンジによる立体交差構造となっている。